広報委員長が訊く

「障害者乗馬」を多くの方に知ってもらいたい

第２回ゲスト◎ 角居勝彦氏　福留健一氏

「障害者乗馬」という言葉をお聞きになったことがありますか。障害者が馬とふれあうことでリハビリ効果やリラックス効果があると期待されるものです。今回は、そうした障害者乗馬の普及を支援する「Reins」（レインズ）の運営にかかわる角居勝彦調教師と事務局長の福留健一さんを本会の岡浩二・広報委員長が訪ねました。

右から角居勝彦氏、福留健一氏、岡広報委員長

岡　一般には「障害者乗馬」って、なじみの薄い言葉ですが、そのあたりから教えてください。

福留　現在日本でも、RDA　Japanとか、パラリンピックなども視野に入れて活動している競技志向の日本障害者乗馬協会（JARD）とか、自閉症児や不登校の子どもたちを対象に行われているホースセラピーとか、いろんな形で、障害者乗馬というのは行なわれてはいるんです。ただ目的も方法もさまざまなので、まとまった形で情報発信されていないのではないかと思うのです。

岡　馬とふれあうことで精神的なリハビリや、実際に馬に乗ることでフィジカルなリハビリ効果が期待できると…。

角居　そうですね。僕もJRAの研究会で「自閉症児が馬によって癒される」ということを聞いて、関心を持ったんです。大阪の乗馬クラブへも出かけて、半身不随、脳梗塞で倒れた方なんかのリハビリに馬が活躍しているというのを目のあたりにしました。

岡　なるほど。

角居　僕たちは勝つ馬をつくる仕事ですけど、裏返せば負ける馬も作ってしまっているわけで。幸い僕は競走馬に恵まれた環境になり、馬に“恩返し”できないか、みたいな気持ちがあって。そんな気持ちの一方で、福留くんのことを聞いてたんです。

福留　僕は栗東の調教助手でしたが、2008年9月、調教中の事故で半身不随になりました。一時は絶望しましたが落ち着きを取り戻していたんです。

角居　知り合いの記者さんに「福留くん、どうして

る？」って聞くと「明るいですよ。馬も嫌がってなかったです」と。「障害者乗馬に関心をもってもらえるかも」と思って声をかけさせてもらったんです。

福留　障害を持つ身になって障害者のために何かできないかと思っていたんです。昨年6月くらいにお話をいただいて、「馬が障害者のために役に立つ、また馬に乗れる」と聞いて、やるしかないと心に決めました。

岡　「Reins」というのは「手綱」という意味だそうですが。

福留　手綱は人と馬がコンタクトをとるために最も重要なものです。馬と障害者との絆を結びたい、そんな思いを託したんです。

岡　これまでの活動について教えてください。乗馬クラブへの働きかけなどはされているんですか。

福留　はい。そこから始めたんですが、受け入れ方がまちまちで、正直とまどいました。

角居　あるクラブは不登校児を対象に、馬とふれあう時間を持てば出席扱いにして学校への誘導を行っているところもあります。だけど、重度の障害者を受け入れてくれるところはまだまだ少ないです。

福留　それに、競走馬がすぐに障害者乗馬に使えると安易に考えていたんですが難しい。厳しい世界で生きてきた競走馬ですから気性も荒い。

角居　「障害者乗馬に使ってください」という問合せはたくさん頂きます。でもすぐ使えるというわけではないので、大学や民間の馬術部へ委託して、そこの高齢の馬を障害者乗馬に回してもらうとか、しています。

岡　いろいろご苦労されているわけですね。でもお話をうかがっていると、障害者乗馬の馬も人材も少ないのがよくわかります。

角居　それは痛感します。

福留　それに障害者乗馬というものがまだまだ認知されていませんので、来年秋に障害者乗馬大会を核とした大きなイベントを計画中です。

岡　たとえば、どんな…。

福留　障害者乗馬、乗馬クラブ、競走馬関連、ウエスタン関連の団体に協力してもらい、オリンピック選手はじめ、ジョッキー福永祐一くんや赤星憲広さんにも声をかけています。

角居　集客力をあげ「障害者乗馬」「馬の癒しの力」について多くの方に知ってもらいたいんです。

岡　それはいい。我々もぜひ参加させてもらいたい。

福留　今年の皐月賞の騎手チャリティーイベントの収益をReinsに寄付いただいたり、少しずつですが賛同いただける方、協力者の輪が広がっているように思います。

角居　現場はみなさん一生懸命なんで、なんとか公の機関に支援してもらって馬の供給、人の手当、受け入れ環境の充実などがスムーズにまわっていければ…。

福留　Reinsが全国の関係者・団体の連絡拠点になれればいいなあと思っています。

岡　素晴らしい試みですね。こうした試みが広がることはとても意義のあること。少しでもお力になればと思います。

取材を終えて

おだやかに語るお二人の言葉に、とても強い意志のようなものを感じました。われわれ馬主の立場でもできるだけ協力したいと、切に思いました

Reins　連絡先

滋賀県栗東市川辺62-7
電話　090-8828-2062
e-mail:Ken1-f@reins-horse.net　www.reins-horse.net